

お気に入り番組を繰り返し楽しむ幼児

～2014年5月「幼児の録画DVD視聴実態ウェブ調査」から～

計画管理部 安楽裕里子

毎年実施している「幼児視聴率調査」の結果では、2012年以降、幼児のリアルタイムのテレビ視聴時間が減少し、録画やDVDの再生時間が増えている。この動きを受け、当研究所では幼児の録画番組やDVDの再生、インターネット動画などの視聴実態を調べるウェブ調査を行った。調査は2014年5月23日(金)～26日(月)の4日間、首都圏に住む1～6歳の、「録画番組やDVDを週4日以上再生する幼児」を対象にインターネット上で実施した。

調査の結果では、〈録画番組〉は、再生が多い番組が年齢ごとに異なり、1歳児ではEテレ(教育)の「いないいないばあっ!」、5、6歳児ではテレビ東京の「妖怪ウォッチ」がよく見られており、再生のされ方でも、「妖怪ウォッチ」は放送直後からよく再生されているなど、違いがみられた。一方で、「サザエさん」(フジテレビ)など、リアルタイムの視聴率は高いが再生視聴はあまりされていない例もみられた。

〈DVD・購入番組〉では、「幼児向け教材」などを中心に1～3歳児の接触者率が高めであった。インターネット動画などの〈デジタル画面視聴〉では、2歳児の接触者率がやや高めで、タブレット端末やスマートフォンなどを使った、「番組以外の動画」や「幼児向けウェブサイト・アプリ」などの利用がみられた。

1. はじめに

当研究所で毎年6月に実施している「幼児視聴率調査」¹⁾の結果をみると、2～6歳の幼児(東京30キロ圏)のテレビ視聴時間²⁾は2012年から減少している。一方、録画番組やDVDの再生時間は、同じ2012年以降増えて、週間接触者率(1週間に少しでも利用した幼児の割合)も同様に増加傾向である。2013年3月に実施した「幼児生活時間調査」³⁾の結果でも、10年前の2003年と比べて、幼児の生活時間が変化する中でテレビ視聴時間が減少し、録画番組やビデオなどの視聴に充てる時間が増えている。この動きを受けて、幼児の録画番組

やDVD再生など、リアルタイムのテレビ視聴以外のより詳細な視聴実態を把握したいと考え、2014年5月にインターネット上でウェブ調査を行った。

調査の目的は大きく分けて二つある。一つは、「幼児視聴率調査」のデータからは知ることができない幼児の録画番組やDVDの再生、インターネット動画などで見られている具体的な番組名やコンテンツを明らかにすること、二つ目は、番組やコンテンツごと、あるいは年齢ごとに、再生時間帯や繰り返し見られているか、再生時の利用機器や場所など、視聴行動の特性を把握することである。

2. 調査の概要

(1) 調査の概要と質問項目

調査は5月23日(金)～26日(月)(平日2日と土曜、日曜)の4日間、首都圏(東京、神奈川、埼玉、千葉)に住む1～6歳の未就学児を対象に実施した。今回の調査は、幼児の録画再生行動の実態を把握する目的から「録画番組やDVDを週4日以上再生する幼児」を条件とし、その母親をインターネット調査モニターから選定、回答を依頼した。また、回答する環境を揃えるために、スマートフォンでの回答者を除外し、パソコン利用者に限定した。調査対象は幼児の男女年齢ごとに75人ずつ割り当てた。サンプル構成は表1のとおりである。なお、報告にあたっては、「幼児視聴率調査」と結果を見比べるため、同じ年齢条件である2～6歳を幼児全体とし、1歳は別枠で表記している。

調査は1時間ごとの時刻目盛(5時～24時)で4日間の日記式で行った。まず、調査日ごとに1時間単位で、幼児が10分以上利用していたメディアに複数回答でチェックを入れてもらう。

○利用していたメディア(1時間ごと)

・放送中のテレビを見た：〈テレビ〉

NHK Eテレ(教育)

NHK 総合

民放地上波⁴⁾

キッズ専門チャンネル⁵⁾

その他(BSなど)

・録画した番組を見た：〈録画番組〉

・市販のDVDやビデオオンデマンドの番組・

映画を見た：〈DVD・購入番組〉

・それ以外(上の選択肢以外)でパソコン、スマートフォン、タブレット、テレビの画面を見た：〈デジタル画面視聴〉

〈録画番組〉は家庭で録画した番組に限定し、〈DVD・購入番組〉は従来のDVDやビデオに加えて、契約をしていればいつでも見られる放送局などのオンデマンドサービスや、huluやdビデオなど有料配信での視聴、さらにiTunesなどで購入した番組や映画を見た場合も含めた⁶⁾。〈デジタル画面視聴〉は、YouTube動画や、幼児向けウェブサイトなどの視聴のほか、アプリのゲームやテレビゲームの利用を含めた。〈デジタル画面視聴〉については6章の冒頭で補足する。

表1 サンプル構成

幼児全体(2-6歳) 男女比は各年齢75人ずつ

	全体	男	女	2歳	3歳	4歳	5,6歳	未就園	幼稚園	保育園
実数(人)	600	300	300	150	150	150	150	132	331	137
%	100	50.0	50.0	25.0	25.0	25.0	25.0	22.0	55.2	22.8

1歳

	1歳	未就園	幼稚園	保育園
実数(人)	150	117	0	33
%	100	78.0	0.0	22.0

続いてウェブ調査画面では、〈テレビ〉以外は、選択したメディアごとに見ていた時間を表示し、それぞれ下記の質問をした。

○視聴内容と利用状況

〈録画番組〉

- ・番組名(複数回答)
[主要 25 番組⁷⁾とその他(自由記述)]
- ・視聴場所
[自宅など家の中(以下「自宅」)、
移動中(電車、車など)、
その他(店内など)]
- ・何回目の視聴か
[初めて、2～4回目、5回目以上]
- ・録画時期
[当日、前日、1週間以内、1週間より前]

〈DVD・購入番組〉

- ・コンテンツ名(複数回答)
[9つのコンテンツとその他(自由記述)]
- ・視聴場所
〈録画番組〉に同じ
- ・利用機器⁸⁾
[テレビ、ポータブルDVD、パソコン、タブレット端末、スマートフォン、車載テレビ、
その他(自由記述)]

〈デジタル画面視聴〉

- ・コンテンツ名(複数回答)
[4つのコンテンツとその他(自由記述)]
- ・視聴場所
〈録画番組〉に同じ
- ・利用機器
[テレビ、パソコン、タブレット端末、スマートフォン、その他(自由記述)]

以上の質問のほか、最終日に事後アンケートを行った。

(2) サンプルの特徴

前項で説明したとおり、今回の調査では「録画番組やDVDを週4日以上再生する幼児」を集めている。調査対象者の選定にあたり、幼児をもつ約7,000人のインターネット調査モニターに、子どもが週何日くらい録画番組やDVDの再生をするか、1日単位で尋ねたところ、2～6歳の幼児全体の40%は「毎日(週7日)」という回答で、週4日以上(週4～7日)利用する幼児は全体の66%であった。この数値はインターネット調査モニターの値で、世論調査に基づく数値ではない。今回の調査対象者は、幼児全体でみると録画番組やDVDの利用が比較的多い幼児ではあるが、極端に利用が多い幼児ではないことを示しておく。

(3) 報告上の用語と本稿の構成

- 報告に入る前に、用語の定義を明記しておく。
- メディア:〈テレビ〉、〈録画番組〉、〈DVD・購入番組〉、〈デジタル画面視聴〉の4つを各メディアと呼ぶ。
 - 接触者率:一定の期間中に1度でもそのメディアやコンテンツを利用した人の割合。
 - 利用率:各メディアや番組を見た人の割合を時間当たりで計算した値。
 - 視聴カウント数:各メディアや各番組、各コンテンツを該当の時間に見たとチェックした数(視聴した回数)⁹⁾。

本稿のこの後の構成は以下のとおり。3章は各メディアの利用(特徴)について、4章は〈録画番組〉、5章は〈DVD・購入番組〉、6章は〈デジタル画面視聴〉の詳細、7章は視聴場所の傾向、8章は年齢ごとの視聴傾向、9章はまとめである。

また、報告にあたって、幼児全体の結果は

小数点以下第1位までとし、属性別（年齢別、男女別など）は整数で表記している。

3. 各メディアの利用について

(1) 各メディアの接触者率

各メディアの期間通しの接触者率を図1に示した。これは調査期間の4日間に1度でもそれぞれのメディアを利用した幼児の割合を示す。幼児全体では、〈テレビ〉が92.8%、〈録画番組〉81.5%、〈DVD・購入番組〉40.0%¹⁰⁾、〈デジタル画面視聴〉30.3%であった。録画番組やDVD再生が多い幼児を対象にしたこの調査でも、リアルタイムのテレビ視聴の接触者率は90%を超えており、〈録画番組〉や〈DVD・購入番組〉より高くなっている。

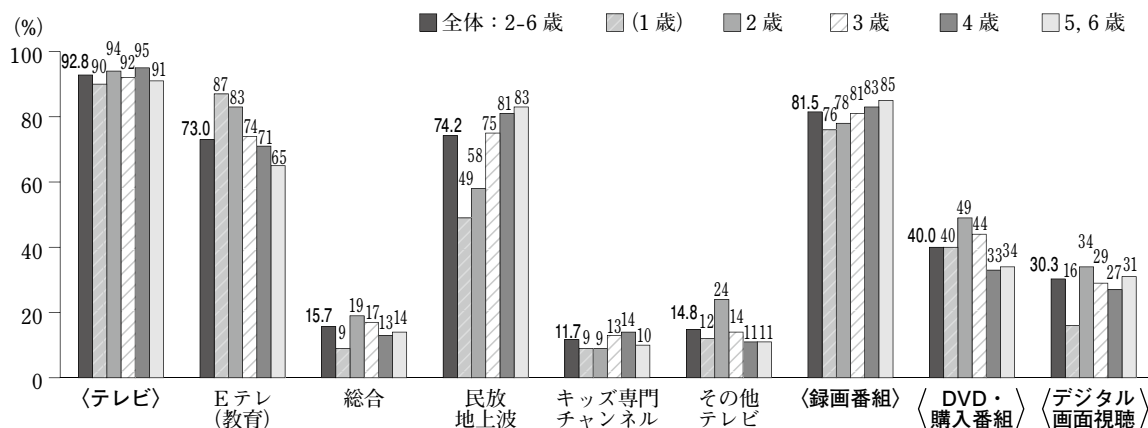
各メディアと〈テレビ〉の項目ごとに年齢別の傾向をみると、Eテレは、低年齢児の接触者率が高く、民放地上波は高年齢児の接触者率が高いなど、「幼児視聴率調査」の結果と同じ傾向がみられる。また、同調査のサンプルにない1歳のEテレの接触者率をみると、2歳よ

りやや高めで、Eテレを最もよく見ている年齢であることが分かる。また、〈録画番組〉は年齢が上がるごとに少しずつ接触が高くなるのに対し、〈DVD・購入番組〉は2歳（49%）が最も高いが、4歳以上でやや低くなる。〈デジタル画面視聴〉は各年齢とも接触者率が30%前後であるのに対し、1歳は16%と低くなっている。また、今回初めて調査したキッズ専門チャンネルの接触者率は幼児全体で11.7%で、Eテレ（73.0%）や民放地上波（74.2%）と比べると低い。利用自体が少ないこともあり、年齢による大きな違いは確認できなかった。

(2) 土曜・日曜でやや高いDVDの接触

各メディアの幼児全体の接触者率を曜日別にみると、〈録画番組〉では平日平均が53.4%、土曜49.2%、日曜52.2%であるが、〈DVD・購入番組〉は平日平均が16.7%、土曜は19.3%、日曜は20.8%と、平日と比べて土曜・日曜でやや高めである。〈DVD・購入番組〉を年齢別にみると、3歳以上で土曜・日曜の接触がやや高くなっている。幼稚園や保育園に通う3歳

図1 各メディアの接触者率（期間通し、幼児全体・年齢別）



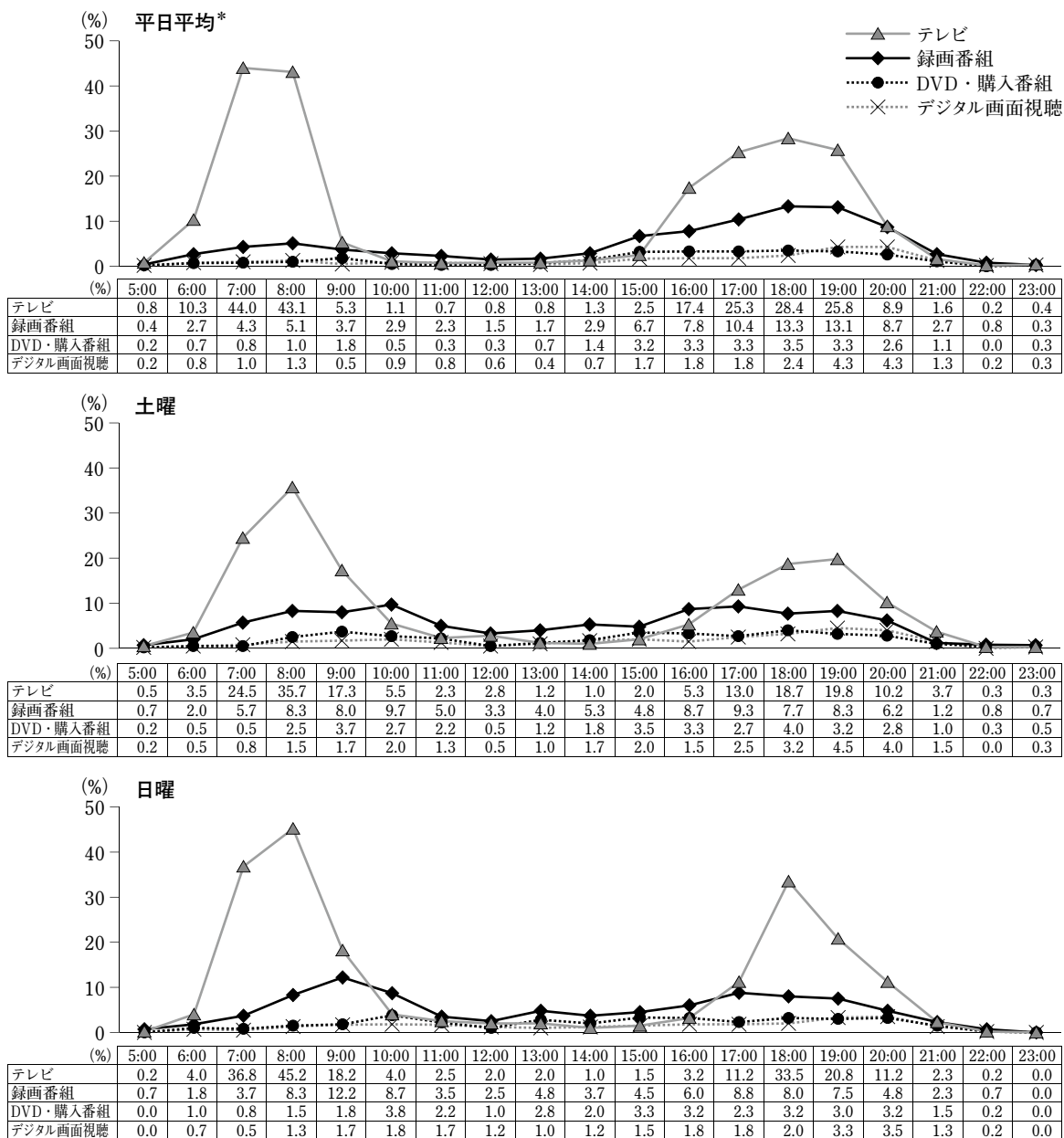
以上の幼児が、余暇時間がまとまるとれる土曜・日曜に、平日は見る事ができない長尺のDVDを見ているのかもしれない。

〈デジタル画面視聴〉では、平日と、土曜・日曜の差はみられなかった。

(3) テレビと録画再生で異なる視聴のピーク

続いて〈テレビ〉、〈録画番組〉、〈DVD・購入番組〉、〈デジタル画面視聴〉の1時間ごとの利用率をみる(図2)。〈テレビ〉は平日、土曜、日曜いずれも朝7時～8時と夕方から夜の17

図2 各メディアの1時間ごとの利用率(平日平均・土曜・日曜)



*平日平均は、金曜と月曜の平均(以下同様)

時～19時に視聴の山があるが、視聴のピークはいずれの曜日も朝である。一方、〈録画番組〉のピークをみると、平日は夕方から夜、土曜、日曜は朝8時～10時と、夕方から夜の16時～19時である。土曜、日曜では、幼児向けの番組を放送していない10時～16時ごろまでは〈録画番組〉が〈テレビ〉よりやや高めである。〈DVD・購入番組〉と〈デジタル画面視聴〉は、最も利用率が高い夕方から夜で3～4%程度と一定の利用がみられるが、朝の利用は少ない。

4. 録画番組の見られ方

(1) よく見られた録画番組

ここから、〈録画番組〉の特徴を詳細にみていく。調査期間中に、選択肢の録画番組を1度でも見た人の割合（接触者率）を番組ごとに集計した（表2）。接触が高い番組をみると、調査期間の金曜から月曜の4日間に放送した番組が多い。金曜、土曜、日曜の番組は、リアルタイムでも高視聴率の番組が多いが、調査曜日による影響も多少出ているかもしれない。

表2 〈録画番組〉番組ごとの接触者率（期間通し、幼児全体・年齢別）

(%)

番組名（放送局）	放送曜日と開始時刻*	全体 2-6歳	(1歳)	年齢別			
				2歳	3歳	4歳	5,6歳
録画番組全体		81.5	76	78	81	83	85
妖怪ウォッチ（テレ東）	金 18:30	24.3	6	9	23	27	38
ドラえもん（朝日）	金 19:00	21.7	9	9	24	25	29
烈車戦隊トッキュウジャー（朝日）	日 7:30	18.2	5	11	18	22	21
それいけ！アンパンマン（日テレ）	金 16:20	17.7	23	35	19	11	6
しまじろうのわお！（テレ東）	月 7:30	15.2	9	17	16	13	15
ハピネスチャージプリキュア！（朝日）	日 8:30	13.0	3	2	14	22	14
クレヨンしんちゃん（朝日）	金 19:30	12.7	1	6	13	13	19
仮面ライダー鎧武/ガイム（朝日）	日 8:00	11.3	2	7	10	13	15
おさるのジョージ（Eテレ）	土 8:35	10.3	3	9	14	9	9
おかあさんといっしょ（Eテレ）	月-土 8:00	9.8	26	20	13	3	3
いないいないばあ！（Eテレ）	月-金 8:25	7.3	35	18	8	1	2
ポケットモンスターXY（テレ東）	木 19:00	6.7	1	2	11	5	9
アイカツ！（テレ東）	木 18:00	6.0	1	2	6	7	9
きかんしゃトーマス（Eテレ）	日 7:00	5.7	11	13	5	3	1
はなかつぱ（Eテレ）	月-金 7:15, 土 9:20	5.0	3	5	5	3	7
ひつじのショーン（Eテレ）	土 9:00	4.8	1	4	3	6	6
みいつけた！（Eテレ）	月-金 7:45	3.7	11	6	4	4	1
サザエさん（フジ）	日 18:30	3.7	1	2	3	6	3
ちびまる子ちゃん（フジ）	日 18:00	3.5	1	1	3	5	4
名探偵コナン（日テレ）	土 18:00	3.2	1	3	2	3	5
GO-GO たまごっち！（テレ東）	木 18:30	2.5	0	0	3	4	3
ワンピース（フジ）	日 9:30	2.0	0	1	3	2	1
忍たま乱太郎（Eテレ）	月-金 18:10	1.2	1	1	2	1	1
おじゃる丸（Eテレ）	月-金 18:00	1.0	3	0	3	1	1
Let's 天才てれびくん（Eテレ）	月-木 18:20	0.8	0	1	0	1	1
その他		33.7	28	33	30	30	41
わからない／覚えていない		0.3	1	1	0	1	0

□はEテレの番組（以下同様）、*本放送のみ表記しており、再放送は省略

2～6歳の幼児全体では、「妖怪ウォッチ」(テレビ東京・金18:30～)が24.3%で、最も多くの幼児に見られた。3歳以上で20%を超え、5、6歳では38%となっており、3歳以上の年齢で男女ともによく見られたことで、幼児全体でも高い接触者率になっている。

年齢別の接触者率をみると、1歳で接触者率が最も高かったのは「いないいないばあっ！」(Eテレ・月～金8:25～)で35%、2歳では、「それいけ!アンパンマン」(日本テレビ・金16:20～)が35%で最も高かった。

続いて、各番組がどのくらい再生されているかを量的に確認するために、番組ごとの期間計の視聴カウント数を上位からみている(表3)。接触者率とおおむね同じ傾向で、「妖怪ウォッチ」が最もよく見られた。上位の番組をみると、

「幼児視聴率調査」(リアルタイム視聴)の上位番組と同じタイトルが多いが、「サザエさん」「ちびまる子ちゃん」(フジテレビ・日18:30～、同18:00～)は、リアルタイムの視聴率は2014年の調査では上位2番組に入っており、35.3%、32.5%と極めて高いが、録画再生の視聴カウント数では下位になっている。放送が日曜の18時台ということもあり、おそらく自宅で家族とともに視聴はするが、録画再生はあまりされていないことが分かる。また、6位にある「しまじろうのわお！」(テレビ東京・月7:30～)は、放送が月曜の朝7時台ということもあり、リアルタイムの視聴率は4.7%と高くないが、録画再生は多くされていることが分かる。

男女別の上位をみると、男の子の1位は「烈車戦隊トッキュウジャー」(テレビ朝日・日7:30

表3 〈録画番組〉視聴カウント数上位番組(幼児全体・男女別)

幼児全体 (2-6歳)		(回)
番組名(放送局)	カウント数	
妖怪ウォッチ (テレ東)	303	
ドラえもん (朝日)	267	
それいけ!アンパンマン (日テレ)	260	
烈車戦隊トッキュウジャー (朝日)	249	
クレヨンしんちゃん (朝日)	152	
しまじろうのわお! (テレ東)	139	
ハピネスチャージ プリキュア! (朝日)	132	
仮面ライダー鎧武/ガイム (朝日)	129	
おさるのジョージ (Eテレ)	108	
おかあさんといっしょ (Eテレ)	101	
いないいないばあっ! (Eテレ)	85	
ポケットモンスターXY (テレ東)	65	
きかんしゃトーマス (Eテレ)	62	
アイカツ! (テレ東)	53	
はなかつぱ (Eテレ)	51	
ひつじのショーン (Eテレ)	48	
ちびまる子ちゃん (フジ)	31	
みつつけた! (Eテレ)	30	
名探偵コナン (日テレ)	26	
サザエさん (フジ)	26	

男		(回)
番組名(放送局)	カウント数	
烈車戦隊トッキュウジャー (朝日)	208	
妖怪ウォッチ (テレ東)	152	
ドラえもん (朝日)	125	
仮面ライダー鎧武/ガイム (朝日)	109	
それいけ!アンパンマン (日テレ)	86	
クレヨンしんちゃん (朝日)	59	
しまじろうのわお! (テレ東)	54	
おさるのジョージ (Eテレ)	53	
きかんしゃトーマス (Eテレ)	41	
ひつじのショーン (Eテレ)	34	

女		(回)
番組名(放送局)	カウント数	
それいけ!アンパンマン (日テレ)	174	
妖怪ウォッチ (テレ東)	151	
ドラえもん (朝日)	142	
ハピネスチャージ プリキュア! (朝日)	116	
クレヨンしんちゃん (朝日)	93	
しまじろうのわお! (テレ東)	85	
おかあさんといっしょ (Eテレ)	74	
いないいないばあっ! (Eテレ)	61	
おさるのジョージ (Eテレ)	55	
アイカツ! (テレ東)	47	

～), 4位に「仮面ライダー鎧武/ガイム」(同8:00～)と戦隊ものが入り, 女の子は「ハピネスチャージプリキュア!」(同8:30～)や「アイカツ!」(テレビ東京・木18:00～)など女の子向けの番組が上位に入っているのが特徴だが, 「妖怪ウォッチ」, 「ドラえもん」は男女ともによく見られて2位, 3位になっている。

年齢別にみると(表4), 1～2歳ではEテレ

の番組が多く見られている。特に「いないいないばあ!」は, 2～6歳の幼児全体の視聴カウント数が85回であるのに対し, 1歳の視聴カウント数は170回であった。1歳は上位3番組の視聴カウント数が100回以上だが, 4位以下は50回未満とひらきがあり, 上位3番組に集中している。2歳では, 「それいけ!アンパンマン」が154回で, 2位以下の番組と比べて極めてよ

表4 〈録画番組〉視聴カウント数上位番組(年齢別)

(1歳) (回)

番組名(放送局)	カウント数
いないいないばあ! (Eテレ)	170
おかあさんといっしょ (Eテレ)	136
それいけ!アンパンマン (日テレ)	114
みつけた! (Eテレ)	45
きかんしゃトーマス (Eテレ)	35
しまじろうのわお! (テレ東)	25
ドラえもん (朝日)	22
妖怪ウォッチ (テレ東)	21
はなかつぱ (Eテレ)	13
烈車戦隊トッキュウジャー (朝日)	13

2歳 (回)

番組名(放送局)	カウント数
それいけ!アンパンマン (日テレ)	154
いないいないばあ! (Eテレ)	57
おかあさんといっしょ (Eテレ)	54
きかんしゃトーマス (Eテレ)	40
しまじろうのわお! (テレ東)	39
ドラえもん (朝日)	31
烈車戦隊トッキュウジャー (朝日)	30
おさるのジョージ (Eテレ)	24
妖怪ウォッチ (テレ東)	24
クレヨンしんちゃん (朝日)	23

3歳 (回)

番組名(放送局)	カウント数
妖怪ウォッチ (テレ東)	92
ドラえもん (朝日)	79
烈車戦隊トッキュウジャー (朝日)	68
それいけ!アンパンマン (日テレ)	62
ハピネスチャージプリキュア! (朝日)	40
おさるのジョージ (Eテレ)	39
しまじろうのわお! (テレ東)	39
クレヨンしんちゃん (朝日)	36
おかあさんといっしょ (Eテレ)	34
ポケットモンスターXY (テレ東)	28

4歳 (回)

番組名(放送局)	カウント数
烈車戦隊トッキュウジャー (朝日)	79
妖怪ウォッチ (テレ東)	77
ドラえもん (朝日)	64
ハピネスチャージプリキュア! (朝日)	55
仮面ライダー鎧武/ガイム (朝日)	42
それいけ!アンパンマン (日テレ)	29
クレヨンしんちゃん (朝日)	29
しまじろうのわお! (テレ東)	29
おさるのジョージ (Eテレ)	21
ひつじのショーン (Eテレ)	14

5, 6歳 (回)

番組名(放送局)	カウント数
妖怪ウォッチ (テレ東)	110
ドラえもん (朝日)	93
烈車戦隊トッキュウジャー (朝日)	72
クレヨンしんちゃん (朝日)	64
仮面ライダー鎧武/ガイム (朝日)	47
ハピネスチャージプリキュア! (朝日)	34
しまじろうのわお! (テレ東)	32
はなかつぱ (Eテレ)	28
アイカツ! (テレ東)	25
おさるのジョージ (Eテレ)	24

く見られた。3歳以上では、「妖怪ウォッチ」,
「ドラえもん」,「烈車戦隊トッキュウジャー」が
いずれの年齢でも上位3番組を占めている。1,
2歳の低年齢児が、Eテレの歌や踊りなどで構
成された番組を好んで再生しているのに対し、
3歳以上になると番組尺が30分程度で、ストー
リー性もある民放の番組を好んで見ている様子
が分かる。

(2) 放送直後から再生された「妖怪ウォッチ」, 放送時間に関係なく繰り返し再生された 「いないいないばあ!」

今回、2～6歳の幼児全体の視聴カウント数
が最も多かった「妖怪ウォッチ」がどのように見
られたかをみてみよう(表5)。

調査期間中に再生された回数(視聴カウン
ト数)は2～6歳の幼児全体で303回、年齢別に

表5 「妖怪ウォッチ」 3時間ごとの視聴カウント数(幼児全体・年齢別・何回目の視聴別)

(回)

3時間ごと 合計 303	幼児全体 (2-6歳) 視聴 カウント数 計 21	年齢別					何回目の視聴か*3 幼児全体 (2-6歳)		
		(1歳) 計 24	2歳 計 92	3歳 計 77	4歳 計 110	5,6歳 計 110	初めて 計 60	2～ 4回目 計 163	5回目 以上 計 80
金	5-9時	11	0	3	1	7	0	3	8
	9-12時	6	0	1	0	2	0	3	3
	12-15時	1	0	1	0	0	0	1	0
	15-18時	12	3	2	2	4	2	6	4
	*1 18-21時	55	2	5	9	23	18	17	7
	21-24時	11	0	2	2	3	4	5	5
土	5-9時	21	0	2	4	9	5	13	3
	9-12時	21	1	1	3	12	2	14	5
	12-15時	10	1	0	6	2	3	5	2
	15-18時	19	2	2	3	8	3	14	2
	18-21時	18	3	0	4	9	5	8	5
	21-24時	1	0	0	0	0	0	1	0
日	5-9時	9	0	6	1	2	0	6	3
	9-12時	11	1	2	4	4	0	9	2
	12-15時	9	0	4	3	1	1	5	3
	15-18時	12	1	5	1	4	3	4	5
	18-21時	13	1	7	4	2	2	6	5
	21-24時	1	0	0	0	1	0	0	1
月	5-9時	11	0	6	2	3	0	9	2
	9-12時	6	0	3	0	0	0	2	4
	12-15時	4	0	1	2	1	0	2	2
	15-18時	19	3	6	4	9	1	14	4
	18-21時	19	3	6	6	7	1	15	3
	21-24時	3	0	1	1	1	0	1	2

*1: 網かけは番組の放送時間帯 *2: 5-9時のみ4時間

*3: 同番組をリアルタイムで見て、その後に録画したのを見た場合は2回目と回答(以下同様)

[録画時期、何回目の視聴か分布]

放送局: テレビ東京

放送日時[番組分数]: 金 18:30～[28分]

録画時期 n=303(回)	当日	前日	1週間以内	1週間より前
	18%	21	42	19
何回目の 視聴か n=303(回)	初めて	2-4回目	5回目以上	
	20	54	26	

みると、1、2歳でも20回以上は見ているが、3歳が92回、4歳は77回、5、6歳は110回と3歳以上で多い。曜日・時間帯にみると、放送時間帯の金曜の18時～21時(55回)が最もよく見られている。表にはないが、1時間ごとの内訳をみると、18時台が9回、19時台が26回、20時台が20回となっており、番組を楽しみにしていた幼児が放送直後から再生している様子が見える。

また、再生ごとに、その放送回を見たのは何回目か(何回目の視聴か)を尋ね、その回答を表の右にまとめた。金曜の18時～21時は「初めて」が最も多く31回、「2～4回目」は17回、「5回目以上」は7回となっている。土曜は、午前や午後の時間帯によく見られ、「初めて」が減り、「2～4回目」が増えている。日曜は、土曜と比べるとやや少ないが朝から再生されており、月曜になると15時以降の時間帯で再びよく見られている。なお、放送直後の時間帯で「5回目以上」の回答があるが、これは調査週以前に録画していた番組(放送回)をあわせて再生していると推測される。このように「妖怪ウォッチ」は放送直後から多くの幼児に再生され、その後も何度も繰り返し再生されている人気番組であることが分かる。「ドラえもん」や「烈車戦隊トッキュウジャー」も、「妖怪ウォッチ」と同じパターンで再生されている。

一方、「妖怪ウォッチ」と異なる見られ方をしたのは、1歳で最もよく見られた「いないいないばあっ!」である(表6)。1歳の視聴カウント数が10回以上の時間帯をみると、オンエア時間帯とは関係なく、平日の18時～21時や土曜

表6 「いないいないばあっ!」(1歳)
3時間ごとの視聴カウント数(何回目の視聴別)

放送局: Eテレ

放送日時 [番組分数]: 月～金 8:25～ [15分]

: 月～金 16:20～ (再放送)

(回)

	視聴 カウント数	何回目の視聴か			
		1歳 3時間ごと 合計 170	初めて 計 37	2～ 4回目 計 70	5回目 以上 計 63
金	5-9時	3	1	1	1
	9-12時	7	2	2	3
	12-15時	7	1	3	3
	15-18時	8	3	3	2
	18-21時	15	4	5	6
	21-24時	0	0	0	0
土	5-9時	5	2	3	0
	9-12時	3	0	3	0
	12-15時	6	1	1	4
	15-18時	18	1	7	10
	18-21時	10	1	6	3
	21-24時	0	0	0	0
日	5-9時	13	1	8	4
	9-12時	11	4	6	1
	12-15時	3	1	2	0
	15-18時	13	2	5	6
	18-21時	11	1	7	3
	21-24時	0	0	0	0
月	5-9時	0	0	0	0
	9-12時	7	1	1	5
	12-15時	7	2	1	4
	15-18時	8	2	2	4
	18-21時	15	7	4	4
	21-24時	0	0	0	0

【録画時期、何回目の視聴か分布】

	当日	前日	1週間以内	1週間より前
録画時期 n=170 (回)	20%	8	29	43
何回目の 視聴か n=170 (回)	22 初めて	41 2-4回目	37 5回目以上	

の15時～21時、日曜では5時～12時、15時～21時と、1歳児が好む番組があまり放送されていない時間帯でよく見られている。何回目の視聴かについて分布をみると、「5回目以上」が37%で、「妖怪ウォッチ」(26%)と比べて多めである。録画時期も「妖怪ウォッチ」では「1

週間より前」が19%なのに対し、「いないいな
いばあっ!」は43%であった。「いないいな
いばあっ!」は、おもに低年齢児向けの番組の放送
が少ない時間帯を中心に、新しく録画した放
送回だけでなく、以前からとりためていたもの
も繰り返し見られている様子が分かる。

(3) 低年齢児に多い繰り返し視聴

調査期間を通して、1人の幼児が選択肢の
〈録画番組〉を平均何番組見たか(平均視聴
タイトル数)を年齢別に調べたところ、1歳で
は平均1.8番組、5、6歳では2.7番組であった
(表7)。表4の視聴カウント数上位番組をみて
も分かるように、特に1歳は特定の番組に視
聴が集中しており、高年齢児になると見ている
録画番組にやや広がりが見られる。なお、選
択肢の番組以外の「その他」の自由回答欄に
記載された具体的な番組名は調査設計上、集
計されていないが、5、6歳で「その他」のカ
ウント数が最も多いことや、自由回答欄に書か
れた番組名が他の年齢と比べて多かったこと
も、高年齢児の嗜好の広がりにも矛盾してい
ないと言える¹¹⁾。

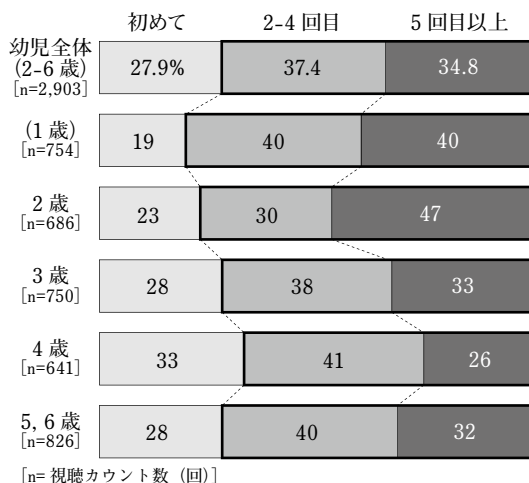
表7 〈録画番組〉1人当たりの平均視聴タイトル数*
(期間通し, 年齢別)

年齢	(1歳)	2歳	3歳	4歳	5,6歳
	1.8	2.2	2.6	2.4	2.7

* 選択肢の25番組と「その他」を足した合計26番組を、調査期間
を通して平均何タイトル(番組)見たかの値

次に、何回目の視聴かの回答分布を年齢
別にみたものが図3である(母数は録画番組
全体の期間計の視聴カウント数)。幼児全体で
「初めて」の視聴が約3割、2回目以上(「2
~4回目」と「5回目以上」)は約7割で、そのうち
「5回目以上」という繰り返し視聴も約35%と多

図3 〈録画番組〉何回目の視聴か分布
(幼児全体・年齢別)



い。幼児以外を対象にした調査データはない
ので比較はできないが、ここまで繰り返し視聴
が多いのはおそらく幼児特有の視聴傾向と考え
られる。また、年齢別の傾向をみると、1~2
歳では2回目以上の繰り返し視聴は約8割、3
歳以上では約7割で、低年齢児のほうが繰り
返し視聴がやや多い傾向があるようだ。

5. DVD・購入番組の見られ方

(1) 低年齢児で多い幼児向け教材の利用

〈DVD・購入番組〉では、コンテンツを下記
の選択肢に分類して尋ねた。NHK番組関連
からは「おかあさんといっしょ」、「いないいな
いばあっ!」、「その他のNHK番組関連」の3
つ、民放番組関連からは「それいけ!アンパン
マン」、「ドラえもん」、「その他の民放番組関連」
の3つ、そのほかに、「幼児向け教材」、「ディ
ズニー作品」、「ジブリ作品」、「その他」を選
択肢とした。このコンテンツごとに、年齢別の
接触者率を記したのが表8である。調査4日
間の幼児全体の〈DVD・購入番組〉の接触者

表8 〈DVD・購入番組〉コンテンツ別の接触者率（期間通し，幼児全体・年齢別）

(%)

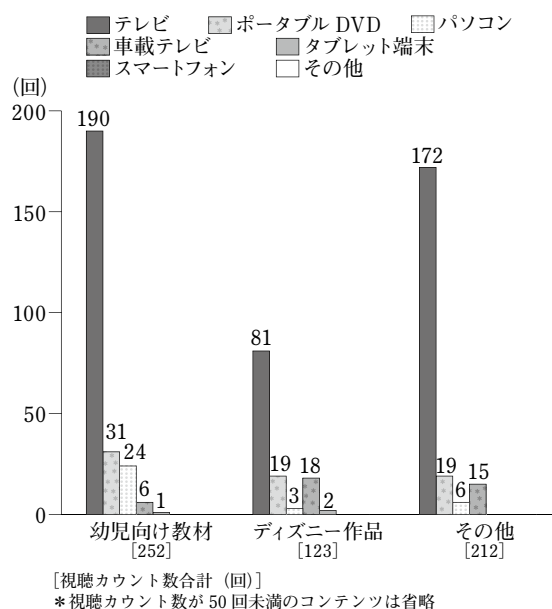
コンテンツ名		全体 2-6歳	(1歳)	年齢別			
				2歳	3歳	4歳	5,6歳
DVD・購入番組コンテンツ全体		40.0	40	49	44	33	34
NHK	おかあさんといっしょ	2.8	7	6	3	1	1
	いないいないばあっ！	2.2	8	6	2	0	1
	その他（NHK番組関連）	3.2	5	5	3	2	3
	NHK番組関連計	5.5	13	11	5	3	3
民放	それいけ！アンパンマン	2.2	3	5	3	0	1
	ドラえもん	3.2	0	1	5	3	4
	その他（民放番組関連）	6.2	4	7	6	5	7
	民放番組関連計	10.2	7	11	13	7	11
幼児向け教材		16.0	23	31	15	9	9
ディズニー作品		7.5	5	7	11	7	5
ジブリ作品		1.8	1	3	3	0	1
その他		12.7	4	14	11	13	13
わからない／覚えていない		1.0	0	0	1	2	1

率は40.0%。最もよく見られているコンテンツは「幼児向け教材」(16.0%)で、2歳が31%と最も高く、1～3歳でよく見られている。次いでよく見られていたのは「ディズニー作品」(7.5%)であった。放送番組との関係を調べるために、Eテレと民放の4つの人気番組の関連DVD¹²⁾も選択肢に加えたが、接触者率はいずれも2～3%台と低かった。

(2) 視聴画面の多くはテレビモニター

〈DVD・購入番組〉のコンテンツ別に視聴カウント数をみると、調査期間計のカウント数が100を超えたのは「幼児向け教材」(252回)と「ディズニー作品」(123回)、「その他」(212回)であった。利用機器（視聴していた画面）の内訳をコンテンツ別にみると(図4)、いずれのコンテンツもふだん見ている[テレビ]での視聴が圧倒的に多いことが分かる。[テレビ]以外の機器が利用されていたのは、「幼児向け教材」で[ポータブルDVD]や[パソコン]、「ディズニー作品」では[ポータブルDVD]、[車載テレビ]であった。

図4 〈DVD・購入番組〉利用機器別の視聴カウント数（期間計，幼児全体・コンテンツ別*）



6. デジタル画面視聴の利用

(1) デジタル画面視聴の定義

データを示す前に、まず、〈デジタル画面視聴〉が含む視聴内容について説明する。幼児のメディア接触の実態を総合的に調べるにあ

たり、これまで書いてきたリアルタイムのテレビ視聴と録画番組やDVD再生に加えて、インターネット動画の視聴も看過できない。今回の調査では、動画に加え、おもに幼児向けのデジタルコンテンツの視聴についても、“デジタル画面を見ている時間”とカテゴライズし、〈デジタル画面視聴〉とした。具体的には、回答者に分かりやすいように利用機器を「テレビ」[パソコン][タブレット端末][スマートフォン]に限定し、選択肢を「テレビ番組動画」、「番組以外の動画」、「幼児向けウェブサイト・アプリ」、「テレビゲーム」¹³⁾、「その他」、「わからない／覚えていない」とした。

(2) 1歳児で低い接触者率

調査4日間の〈デジタル画面視聴〉の接触者率は30.3% (表9)。年齢別にみると、幼児全体には含まれていないが、1歳が16%と低くなっており、最も高いのは2歳で34%である。3歳以上では30%前後で、年齢が上がるごとに接触者率が高くなる傾向はみられなかった。

コンテンツ別にみると動画の利用が多く、動画計の接触者率は23.3%である。内訳では、

「番組以外の動画」の利用が19.3%、「テレビ番組動画」が8.0%であった。「テレビ番組動画」と「番組以外の動画」で年齢による違いをみると、2～4歳では「番組以外の動画」がいずれも「テレビ番組動画」より高めだが、5、6歳では「テレビ番組動画」が13%と他の年齢に比べて高めで、「番組以外の動画」(15%)と同程度であった。録画番組の接触者率が年齢が上がると高くなり、5、6歳が最も高かったように、「テレビ番組動画」も好んで視聴しているようだ。

(3) 2歳児が多い

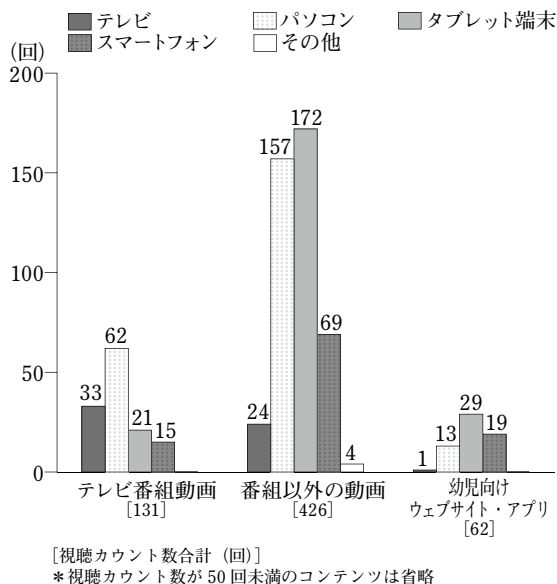
タブレット端末やスマートフォンの利用

〈デジタル画面視聴〉のコンテンツ別の利用機器をみると(図5)、〈DVD・購入番組〉の利用機器とは回答が大きく異なり、パソコンとタブレット端末の利用が目立つ。「テレビ番組動画」では[パソコン]が最も多いが、「番組以外の動画」や「幼児向けウェブサイト・アプリ」では、[タブレット端末]が[パソコン]よりやや多めになっている。なお、本調査のサンプル(2～6歳)のタブレット端末の世帯所有率

表9 〈デジタル画面視聴〉コンテンツ別の接触者率
(期間通し、幼児全体・年齢別)

コンテンツ名		全体 2-6歳	(1歳)	年齢別			
				2歳	3歳	4歳	5,6歳
デジタル画面視聴コンテンツ全体		30.3	16	34	29	27	31
動画	テレビ番組動画	8.0	4	5	8	7	13
	番組以外の動画	19.3	10	23	21	19	15
動画計		23.3	12	25	24	22	22
幼児向けウェブサイト・アプリ		4.2	3	6	3	3	4
動画・ウェブ・アプリ計		25.7	14	29	25	23	25
テレビゲーム		2.5	0	1	4	2	3
その他		4.2	3	5	3	3	5
わからない／覚えていない		1.2	0	1	1	2	1

図5 〈デジタル画面視聴〉利用機器別の視聴カウント数（期間計、幼児全体・コンテンツ別*）



は24.8%で、世間一般と比べてやや高めである¹⁴⁾。

〈デジタル画面視聴〉全体の利用機器別の視聴カウント数（期間計）を年齢別にみると（図6）、2歳ではタブレット端末が最も多く、次の

でスマートフォンとなっている。3歳以上はパソコンの視聴カウント数が増えてくるため、この2つの機器だけが突出して高いのは2歳児の特徴である。「幼児生活時間調査」で年齢別の利用機器をみても、2歳児でスマートフォンやタブレット端末の利用が高めの傾向があった。

また、コンテンツごとに、年齢別の視聴カウント数をみると、「幼児向けウェブサイト・アプリ」では、2歳の視聴カウント数が、全体の62回のうち半数（31回）を占めていた。2歳くらいの幼児が、触れば反応する簡易な操作性のあるタブレット端末やスマートフォンを使って、幼児向けウェブサイトの視聴やアプリのゲームなどを楽しんでいると推測される。

7. 視聴場所の傾向

自宅が9割以上

続いて、それぞれのメディアを視聴していた場所を尋ねた回答を比較してみる。〈録画番組〉、〈DVD・購入番組〉、〈デジタル画面視聴〉につい

図6 〈デジタル画面視聴〉利用機器別の視聴カウント数（期間計、年齢別）

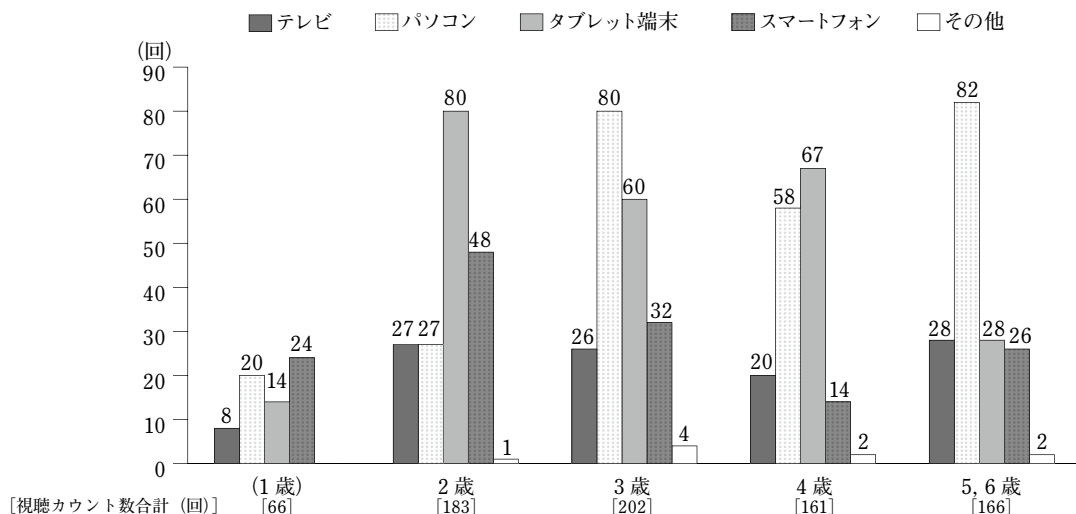
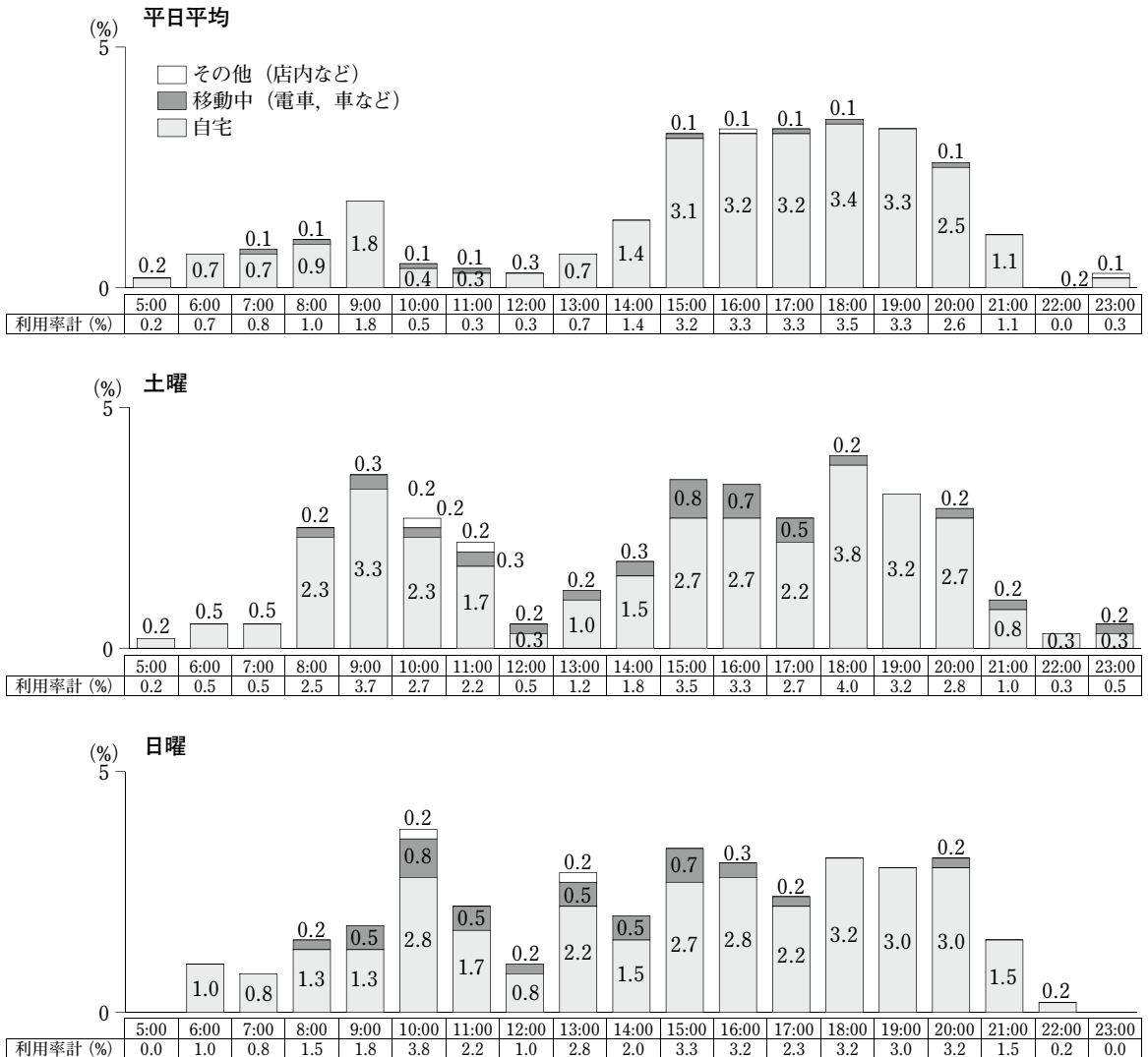


図7 〈DVD・購入番組〉1時間ごとの利用率(曜日別、幼児全体・視聴場所ごとの積み上げ)



て、視聴していた場所を[自宅]、[移動中]、[その他]の3つの選択肢で尋ねた。各メディアの視聴カウント数の合計(期間計)を100%として、視聴場所の分布をみると、[自宅]が占める割合は、〈録画番組〉99.1%、〈DVD・購入番組〉91.4%、〈デジタル画面視聴〉96.0%と、いずれも9割以上は自宅などの家の中で見ることが分かる。[自宅]の回答が最も少なかった〈DVD・購入番組〉の1時間ごとの利用率を曜日

別にみると(図7)、土曜、日曜の9時~17時の日中で[移動中]の回答がやや高めている。

8. 年齢ごとの視聴傾向

ここまで各メディアの利用についてデータを紹介してきたが、一概に幼児と言っても、年齢が1歳異なるだけで視聴実態に違いがみられ

た。そこで、幼児が年齢ごとにどのようにリアルタイムのテレビや録画番組、DVDなどを見ているのか、調査の結果をまとめてみる。

まず、1歳児は他の年齢と比べてEテレを最もよく見ており、録画番組でも「いないいないばあっ!」と「おかあさんといっしょ」など歌や踊りなどで構成されたEテレの番組を好んで、繰り返し見ている。他の年齢と比べると、録画再生する番組が限られており、おもに1歳児向けの番組が放送されていない時間帯を中心に繰り返し見ている。「幼児向け教材」などのDVDも見ているが、〈デジタル画面視聴〉は他の年齢より少ない。

2歳児も民放地上波よりEテレの接触者率が高く、録画番組でも「いないいないばあっ!」や「おかあさんといっしょ」、「きかんしゃトーマス」などEテレの番組をよく見ているが、突出して多いのは「それいけ!アンパンマン」(日テレ)である。また、DVDの接触者率は他の年齢と比べて最も高く、「幼児向け教材」をよく見ている。パソコンやタブレット端末などを使った〈デジタル画面視聴〉も他の年齢と比べて比較的よく利用しており、「番組以外の動画」や「幼児向けウェブサイト・アプリ」などを視聴している。

3歳児になると、リアルタイム視聴ではEテレと民放地上波の接触者率が同程度になる。録画番組では3歳以上は共通して「妖怪ウォッチ」、「ドラえもん」、「烈車戦隊トッキュウジャー」など、ストーリー性のある民放番組がよく見られている。3歳児も2歳児同様にDVDの接触は比較的高い。〈デジタル画面視聴〉の接触は幼児全体の平均程度で、コンテンツでは「番組以外の動画」を他の年齢よりやや多く見ている。

4歳児になると、リアルタイム視聴では、Eテ

レより民放地上波の接触者率が高くなる。録画番組の接触は1～3歳児と比べてやや高くなるが、DVDの接触は4歳以上ではやや低くなる。低年齢児のように「幼児向け教材」などのDVDに頼らずとも、録画番組で十分楽しめているのではないだろうか。〈デジタル画面視聴〉の接触者率は幼児全体の平均程度で、コンテンツはやはり「番組以外の動画」を多く見ている。

5、6歳児のリアルタイム視聴の接触者率は民放地上波が高く、4歳児と比べてさらにEテレとの差がひらく。録画番組の接触は最も高く、一番よく見られた「妖怪ウォッチ」は放送直後からよく再生されており、5、6歳の38%が調査期間中に一度は再生している。一方、DVDの接触は4歳児と同程度でやや低めである。〈デジタル画面視聴〉の接触者率は幼児全体の平均程度で、コンテンツでは「番組以外の動画」に加えて、「テレビ番組動画」も同じくらい見られている¹⁵⁾。

9. まとめ

「幼児視聴率調査」の結果で増えている「録画DVD再生」の利用において、今回の調査で録画番組とDVDの内訳をみると、録画番組のほうがDVDより多くの幼児に再生視聴されていた。また、年齢別の傾向では「録画DVD再生」は、2歳児など低年齢児の接触が高いことが分かっていたが、低年齢児で接触が高いのはDVDで、録画番組は高年齢児のほうが高いことが分かった。

また、録画番組では、幼児の年齢ごとにお気に入りの番組が異なり、再生される時間帯や回数にも差がみられた。よく見られている録画番組の多くは、リアルタイムでも高視聴率の

番組で、幼児はリアルタイムでも番組を楽しみ、さらに録画したお気に入り番組を自分の余暇時間に繰り返し再生している¹⁶⁾。1回の再生視聴にとどまらず何度も繰り返して見ているため、「幼児視聴率調査」のリアルタイムの視聴率以上に、録画再生は特定の番組に集中している傾向がみられた。

一方で、「サザエさん」など、視聴習慣としてリアルタイムで見る人が多いが、録画再生は少ない番組の事例もみられた。

パソコンやタブレット端末などでの動画やウェブサイトの視聴、アプリ、ゲームなどの利用は、録画番組やDVDの利用に比べるとまだ接触者率は低いものの、今回のサンプルでは幼児全体の30%が接触していた。見ているコンテンツは「テレビ番組動画」より「番組以外の動画」が多く、これらのデジタル画面の利用は、従来のテレビ視聴だけではなく、かつて絵本や図鑑を見たり、おもちゃで遊んだりという行動に近い感覚なのかもしれない。

今回の調査では、1～6歳の幼児が、多様なメディアとデジタル機器を、年齢ごとの発達段階やライフスタイルに合わせて器用に利用している実態が確認できた。今回とらえたこの幼児のメディア接触の実態が、今後どのように変化していくのか、動向に注目していきたい。

(あんらく ゆりこ)
(調査・分析時は世論調査部所属)

注：

- 1) 最新の調査結果は、渡辺洋子「幼児のテレビ視聴と録画番組・DVDの利用状況～2014年6月「幼児視聴率調査」から～」『放送研究と調査』2014年10月号を参照。
- 2) 同調査の「テレビ視聴」とはリアルタイム視聴のみで、録画再生は含まない。
- 3) 中野佐知子「幼児のテレビ視聴時間の減少とそ

の背景～幼児生活時間調査・2013の結果から～」『放送研究と調査』2013年11月号を参照。

- 4) 民放地上波は日本テレビ、テレビ朝日、TBS、テレビ東京、フジテレビ、TOKYO MX、テレビ埼玉、テレビ神奈川、千葉テレビなど。
- 5) キッズ専門チャンネルはディズニーチャンネル、アニマックス、キッズステーションなど子ども向けの専門チャンネル。
- 6) おもに有料のパッケージものだが、販売促進用の無料DVDや図書館などでの貸し出しビデオなども含むため、有料という表記はしていない。有料配信はストーリーミング視聴も含む。
- 7) 「幼児視聴率調査」の視聴率上位番組や自由記述欄などを参考に選択。
- 8) 〈DVD・購入番組〉、〈デジタル画面視聴〉ともに、利用機器は再生機ではなく、視聴していた画面について尋ねた。
- 9) 視聴カウント数では、1時間以内に同一名の番組を複数回繰り返し再生した場合も1回とカウントされる(例えば午前8時～9時に10分の番組を3回再生した場合もカウント数は1回)。
- 10) DVDと購入番組の内訳について補足すると、事後アンケートで、「お子さんがDVD(ビデオ)や購入番組などを見る際に、次のようなことがありますか」と複数回答で尋ねたところ、「hulu、dビデオなどで有料配信の番組や映画を見る」と「iTunesなどで購入した番組や映画を見る」で、あると答えた人はあわせて3.3%とわずかであった。〈DVD・購入番組〉の接触者の多くは従来のDVDの利用と推測される。
- 11) 録画番組名で「その他」を選択した期間計の視聴カウント数は、1歳112回、2歳131回、3歳102回、4歳103回、5、6歳191回。
- 12) 公表されているDVDのレンタルや売り上げランキングを参考にして選定した。
- 13) ゲーム機はテレビゲームに限定し、それ以外のゲーム機はおもちゃとゲーム機との分類が難しいため、含めないこととした。
- 14) 「消費動向調査」(2014年3月内閣府実施)によると、タブレット端末の一般世帯所有率は20.9%。同調査では、一般世帯と単身世帯に分けて数値を出している。
- 15) 2014年「幼児視聴率調査」でEテレと民放各局の接触者率を比較すると、5、6歳を除く2～4歳では、Eテレの接触者率が民放各局と比べて最も高い。この調査では民放は局別でなく1つにまとめているので、比較した傾向の違いに注意されたい。
- 16) 事後アンケートで、「番組を放送で見て、あとで同じ放送を録画でも見る」の質問で、「よくある」(32.5%)、「たまにある」(33.2%)と答えた回答者はあわせて65.7%。